

## 散水方法の違いによるほだ木の水分吸収（Ⅲ）

### —簡易ドリップ灌水によるほだ木の吸水—

#### 1 研究のねらい

春のシイタケ発生期に効果的な散水を行うため、節水型の散水方式である簡易ドリップ灌水を72時間行った場合のほだ木の吸水量の調査結果について報告する。「簡易ドリップ灌水」とは、小さい穴をあけたビニールホースから水滴をほだ木木口面に滴下させる簡易なドリップ灌水による散水方式である。

#### 2 調査方法と結果

(1) 調査方法：当センター内の人工ほだ場の一区画について降雨を遮断し、コナラ原木及び植菌2～6年目のほだ木を各5本ずつ準備した。各ほだ木木口面に簡易ドリップ灌水を72時間連続して行い、0.02 kg単位で1、3、6、12、24、48、72時間後のほだ木重量を測定した。

今回は、蛇口に穴をあけたビニールホースを接続する灌水方式とし、使用水量はできるだけ少なくして、ほだ木に滴下した。灌水量は0.187 l/本・hrである。調査終了後にはほだ木の絶乾重量を測定し、時間毎の含水率を求めた。

(2) 調査結果：散水開始直前から各測定時間までの吸水量を単位本数当りの散水量で除し、平均吸水効率を求めた(図-1)。その結果、各ほだ木とも3時間後で最大となっていた。72時間後までの含水率増加は図-2のとおりで、原木1.2%、植菌後2・3年目がそれぞれ1.7%、植菌後4年目5.6%、植菌後5年目4.9%、植菌後6年目が9.5%となった。特に植菌後4～6年目のほだ木の含水率増加割合は、植菌後2・3年目よりも高く、植菌6年目ほだ木は植菌4・5年目のものと比較して約2倍含水率が上昇していた。

#### 3 成果の活用

簡易ドリップ灌水を行ってほだ木内の含水率を上昇させる場合には、植菌後4年目以降に効果があるものと考えられた。その場合の灌水時間は、初期含水率37%の場合では、発生操作時の含水率の目安である40%を超える約6時間は必要であると考えられた

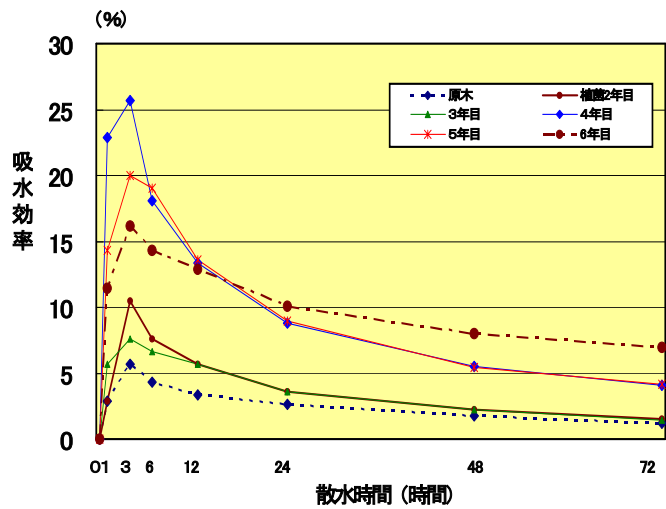


図-1 平均吸水効率

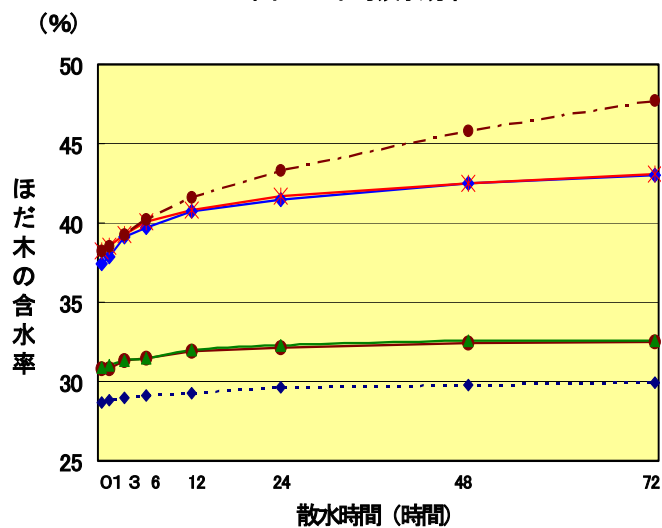


図-2 簡易ドリップ灌水による含水率変化

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割 560 番地-11 TEL019(697)1536  
 岩手県林業技術センター FAX019(697)1410  
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>